

Nature

豊かな自然を守る



夕日に染まるのどかな湖

国土のほぼ50%を森林、10%を数千の湖と湿地帯が占める緑に覆われた自然豊かな国。ラトビア最大の湿地帯ティチュ湿地帯は今も原始時代以来の生態系が維持されています。この自然を守るため設けられたのが自然保護地域。立ち入り規制され、面積は国土の12%を占める。この保護のおかげで希少動物保護に指定された黒コウノトリなど、多種にわたる珍しい動植物も現存しています。



のんびり川下りも楽しい

Culture

独自の文化を育む

絶えず周辺諸国の支配下に置かれてきたラトビア人は歌と踊りを通じ、民族の団結と文化を継承してきました。その象徴ともいえるのがユネスコ無形遺産に登録されている「歌と踊りの祭典」。5年に1度リガ等で開催される国民的行事で、参加人数はなんと数百万人。華やかな民族衣装や踊り、音楽に包まれます。この本祭が開催されない年には「若人による歌と踊りの祭典」が開催される年もあります。

また、ラトビア人にとって大切な年中行事が夏至祭。人々は日本のお盆や正月のように帰省。長い冬が終わり待っていた夏を家族と共に、焚き火、ビール、チーズ、ライ麦パン、そして女性は花で編んだ冠をかぶり歌と踊りで祝います。また、オペラや絵画、工芸など幅広い芸術分野も注目されています。



歌と踊りの祭典



夏至祭



音楽の殿堂「国立オペラ座」



ラトビアの文化を伝える民俗野外博物館

Shopping

名産品をお土産に

ラトビアならではの名産品といえば、バルト海沿岸を産地とする琥珀のアクセサリー。また、リネンを生かしたファッショングッズやシャンプーなどのオーガニック商品、美味なチョコレート等は知られざる名品です。素朴な味わいが人気の陶器や籠・革・織物製品もおすすめのお土産品です。



琥珀



ラトビア産のハチミツ



籠の野外マーケット

ラトビアの概要

- 国名：ラトビア共和国
- 面積：6万4589m²（日本の約1/6）
- 人口：200万200人（2014年5月）
- 首都：リガ（人口約69万人）
- 公用語：ラトビア語
- 民族：ラトビア人60%、ロシア人26.9%、その他ポーランド人、ユダヤ人、リーヴ人など
- 宗教：キリスト教（プロテスタント、カトリック、ロシア正教など）

旅の基礎知識

- パスポート：有効残存期間は滞在日数+3カ月以上
- ビザ：滞在期間が3カ月以内であれば不要
- 時差：日本より7時間遅れ。夏時間採用時（3月最終日曜～10月最終日曜）は6時間遅れ。
- 国際線：日本からの直行便はないがヨーロッパ系の航空会社なら1度の乗り継ぎで首都リガに到着できる。また、ストックホルムからリガへのクルーズもある。エストニア、リトアニアへはバスが便利。
- 通貨：ユーロ（EUR）※2014年1月から
- 電圧・プラグ：電圧は220V、50Hz。プラグはヨーロッパ式のC型。日本の電器製品を使用する場合は変圧器とアダプターが必要。
- 水：水道水はカルシウム成分が多く含まれているため、飲料水はミネラルウォーターがおすすめ。
- トイレ：駅や町中にある公衆トイレはほとんどが有料。1回0.5～1ユーロ。標示は男性が▼かV、女性は▲かS。
- 電話：国際電話もかけられるカード式の公衆電話が普及。ラトビアの国番号は「371」。
- 郵便：ラトビアから日本へ出す場合、ハガキで0.71ユーロ。
- 営業時間：銀行は一般的に月曜～金曜の9:00～18:00（一部土曜午前中営業）。レストランは11:00～深夜が多い。商店は月曜～土曜の9:00～18:00が一般的。日曜は観光地を除き休業が多い。
- 飲酒・喫煙：リガをはじめ多くの都市では公園など公共の場所での飲酒は禁止。また、駅や映画館など公共の建物内での喫煙やEUの規定に準じ、レストランやバーでの喫煙も禁止。
- 治安・保険：治安は安定しているが、空港や駅、観光地など人の集まる所では置き引きやスリに注意が必要。入国に際しては、3万ユーロ以上をカバーできる海外旅行保険に加入の上、保険加入証明書（英文表記）を携行すること。
- 気候：高緯度に位置するがバルト海に流れ込む暖流の影響で、緯度のわりには比較的温暖。四季があり、春は4月から5月で平均気温は7～11℃。セーター、コートが必要。6月から9月上旬が夏。30℃を超える日が続くこともあるが乾燥しているため比較的過ごしやすい。夜は冷えるので、長袖が必要。秋は9月中旬から10月、春と同様の服装を。11月に入ると平均気温が1～3℃となりよいよ冬に。12月から3月は雪に覆われ、-20℃を越す日もあり、厚手のコートやセーター、手袋等の防寒具が必要。
- 祝祭日：1月1日 元日
復活祭の前々日 聖金曜日（2013年は3月29日）
移動祝祭日 復活祭（2013年は3月31日）
5月1日 メーデー
5月4日 1990年の独立回復記念日
5月第2日曜日 母の日
6月23日 リーグアの日
6月24日 夏至祭、聖ヨハネの日
11月18日 1918年の独立記念日
12月25日 クリスマス
12月26日 ボクシング・デー
12月31日 大晦日

●月別平均最高・最低気温（℃）と降水量（mm）

都市	月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
リガ	平均最高気温	-2.3	-1.7	2.7	9.8	16.2	20.1	21.7	21.0	16.3	10.4	3.9	0.3
	平均最低気温	-7.8	-7.6	-4.7	1.0	5.9	10.0	12.3	11.8	8.0	4.0	-0.5	-4.4
	降水量	34	27	28	41	44	63	85	73	75	60	57	46
東京	平均最高気温	9.8	10.0	12.9	18.4	22.7	25.2	29.0	30.8	26.8	21.6	16.7	12.3
	平均最低気温	2.1	2.4	5.1	10.5	15.1	18.9	22.5	24.2	20.7	15.0	9.5	4.6
	降水量	48.6	60.2	114.5	130.3	128.0	164.9	161.5	155.1	208.5	163.1	92.5	39.6

参考資料：世界気象機関

●イベントカレンダー

- 2月初旬 **メテニ**
冬の終わりを告げる伝統的な祭り。ラトビア各地で仮装パレードなどが行われ、リガでは民俗博物館で開催される。
- 6月第1週末 **大民芸品市**
リガの民俗野外博物館で開催されるラトビア最大の民芸品市。ラトビア中から2,000人以上のクラフトマンが集り、カゴや麻製品、伝統衣装から食品まで作り手から直接購入できる。
- 6月23・24日 **リーグアの日/夏至祭**
夏の到来を祝う祭り。23日は夜を通して焚火をするなどの習慣が今も残る、ラトビアらしい祝祭日。
- 7月初旬 **音楽祭（ルンダレ宮殿）**
パウスカ郊外にあるバロック・ロココ建築が素晴らしいルンダレ宮殿を舞台に繰り上げられる中世音楽の国際フェスティバル。
- 9月最終週末 **ミチュリディエナ**
聖ミカエルの日にリガで開催される、収穫を祝うお祭。野菜の仮面劇が行われたり、民芸品の市が開かれる。
- 12月下旬 **ズィエマススヴァートゥキ**
もともとは冬至を祝う祭りで、ラトビア各地で行われる。現在はクリスマスにちなんだ仮面劇が行われることもある。

関連機関連絡先

- 駐日ラトビア共和国大使館
住所：〒150-0047 東京都渋谷区神山町 37-11
電話：03-3467-6888 URL：www.mfa.gov.lv/japan（日本語）
- ラトビア政府観光局（日本代表）
住所：〒103-0004 東京都中央区東日本橋 3-9-11-5 F
電話：03-6661-2045 URL：www.latvia.travel/ja
- ラトビア政府観光局（リガ本部）
住所：Brivibas 55 street Riga, LV-1519, Latvia
電話：+ 371 67229945 URL：www.latvia.travel/en/（英語）
- リガ市観光局（RTAB）
URL：www.LiveRiga.com

写真提供：Latvian Tourism Development Agency and Riga Tourism Development Bureau archive



Latvia

ラトビア

幾多の歴史が比類なき個性豊かな文化を育み 美しい時間が今ゆるやかに流れる「バルトの真珠」

ラトビア共和国はバルト海に面し、北欧や中欧、ロシアを結ぶ交通の要地に位置します。森林が国土の半分を占める緑豊かな大地には、数千を超える湖と湿地帯が点在。豊かな自然、風光明媚な景観が夏のリゾート、ウインタースポーツが楽しめる冬のリゾートとして人気を呼んでいます。

興味深いのは、140万曲にもものぼる民謡ダイナに象徴される民族文化の豊かさ。花と歌と踊りをこよなく愛し、「歌と踊りの祭典」は全国から数万人が集うほどの大規模イベントです。

歴史的建造物も多く、かつて「バルトのパリ」と呼ばれたリガにはハンザ同盟時代の面影を今に伝える家並や壮麗なアールヌーヴォー様式の建築群、バルト三国最古の建築物のひとつリガ大聖堂などがあり、見どころは尽きません。

そんなラトビアを楽しむ秘訣は Relax、Enjoy、Experience です。リラックスしてラトビアでの体験をお楽しみください。お待ちしております。



History

幾多の歴史を繋ぐ



独立の想いと背景を伝える自由記念碑



民族衣装を着た女の子

ラトビアに居住が始まったのは約1万1千年前。当時使用されていた火打ち道具、刀、鏃などから、彼らがトナカイの狩猟民であったと推測されています。

その後、バルト語系諸民族の祖先と見なされるインド・ヨーロッパ語系の人々が融合。自然環境の変化とともに農業や酪農が発達、琥珀採取が始まると物々交換を通じ様々な民族間との交流が進みました。5～8世紀ヨーロッパは民族大移動の時代に入り、バルト民族も移動を開始。13世紀になるとドイツ騎士団による侵略・入植が始まり、やがて諸都市はハンザ同盟に加盟。経済は発展したものの占領地はその後スウェーデン、ポーランド、ロシアの支配も受け、ラトビア人は断絶、孤立の時代を迎えました。

19世紀にはヨーロッパ全土に民族意識が高揚。ラトビアでも週間新聞「我が家の客」、経済・教育の自立を説いた「民族的な努力」といった民族を意識した多数の新聞・書籍が刊行されました。そして1918年11月18日、独立。しかし独ソ不可侵条約締結後の1940年ソ連に、そしてドイツ、再びソ連の支配下に。しかし1991年8月21日、独立を回復。現在はEUやNATOに加盟し、目覚ましい発展を遂げています。

World Heritage

世界遺産を散策する

現在ラトビアには2つの世界遺産が登録されています。「リガ歴史地区」はリガ旧市街にあり、“ドイツよりもドイツらしい”といわれる街並みは歴史学的・学術的価値が高いと評価。ハンザ同盟時代からのロマネスク、ゴシック、バロックなど各時代の建造物が悠久の時を刻み街を彩っています。「シュトルーヴェの測地弧」はドイツ出身のロシア天文学者フリードリッヒ・ゲオルク・ヴィルヘルム・フォン・シュトルーヴェが中心となって設置された三角測量点群。地球の大きさなどを正確に計る上で貢献。ノルウェーから黒海まで10カ国の測量点が世界遺産に登録され、ラトビアはリガとダウガピルの中間地点が登録されました。



リガ旧市街でオフタイム



リガ旧市街

Taste

風味を味わう

主食は独特の風味がやみつきになるライ麦パン。夏至祭に食べるキャラウェイ入りチーズ等の乳製品や魚料理、ビール、ハチミツなど多彩に揃っています。



レストラン



ライ麦パン



ラトビア料理



VENTSPILS

ヴェンツピルス

観光、アート、スポーツ、そして街づくりに力を注ぐ「近代都市」

バルト海に面した港湾都市。13世紀には既に都市国家が形成され、14世紀にはハンザ同盟に加盟。17世紀クルゼメ公爵領支配下時代には高度な技術で造船の町としても有名になりました。1991年の独立回復後は自由港に指定され、中継貿易を中心に急速に発展。公園や石畳の広場など町は美しく整備され、アートやスポーツ施設にも力を注入。主な観光ポイントはリヴォニア騎士団城、屋外自然博物館、バルデマールス記念像などがあります。



海と船と花のヴェンツピルスならではの美しい景観



リヴォニア騎士団城と整備された美しい街並

KULDĪGA

クルディーガ

「ゴールドマーケット」という古名を持つ水辺が美しい古都

かつてはバルト系民族が城を築いていましたが、13世紀以降はドイツ騎士団支配のもとで繁栄。14世紀にはハンザ同盟に加盟。18～19世紀に建造された赤い瓦屋根の木造建築とベンタ川に架かる煉瓦造りの橋が町の顔となっています。17世紀の建造物が保存された旧市街、ヨーロッパNo.1の 横幅といわれるベンタ川の滝、17世紀この地を支配したクルゼメ公爵領の歴史資料などが収められたクルディーガ郷土博物館、バロック様式のパイプオルガンを所蔵する聖カトリナー教会なども人気の観光ポイントです。



ベンタ川に架かる橋



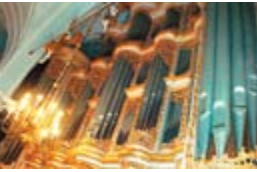
赤い瓦屋根の街並

LIEPĀJA

リエパーヤ

日本とも関係深いバルト海に面した「ラトビアの音楽の都」

日露戦争時、バルチック艦隊がここから出撃したことで日本とも関係深い港町。不凍港の利点を活かし海上輸送の中継地として発展しました。18世紀に建造された聖三位一体教会はロココ様式の豪華なインテリアで知られていますが、中でも7000本のパイプを備えたオルガンは世界最大級。町では毎年8月行われるロックフェスティバル「リエパーヤの琥珀」をはじめ、ジャズ、クラシックなど多彩な音楽祭が開催されています。



聖三位一体教会の壮麗なパイプオルガン



聖三位一体教会

RĪGA

リガ

ハンザ商人が活躍した800年の歴史を刻む「バルトの貴婦人」

人口約70万人を抱えるラトビアの首都。バルト三国最大の都市で、市の中央をダウガワ川が流れ、東岸の旧市街を中心に町がひろがっています。1201年、ドイツ騎士団がバルト地方の新しい司教区として領有を開始。13世紀末にはハンザ同盟に加盟し、東西ヨーロッパを結ぶ重要な交易要拠点として発展。ハンザ商人の商家など旧市街を彩るロマネスク様式の建造物はこの時代に建てられ、中世の面影を色濃く残しています。16世紀からは数力国の支配下に入り街は新しい表情を重ね、18世紀後半には大規模な港湾都市として発展。壮麗なアールヌーヴォー様式建築群がある新市街はリガのもう一つの魅力として人気を呼んでいます。



●聖ペテロ教会



聖ペテロ教会

13世紀初頭に建造された代表的なゴシック様式の教会。1523年まではカトリック教会でしたが、宗教改革後はルター派の教会に。木造の塔として17世紀にはヨーロッパの高さを誇っていましたが、その後落雷による火災や第2次世界大戦などで崩壊を繰り返し、1973年現在の姿に再建されました。エレベーターで約70mの高さまで昇ると、リガの美しい旧市街を360度のパノラマで一望できます。

●聖ヨハネ教会



聖ヨハネ教会



リガ城と旧市街の夜景

●リガ城

リヴォニア騎士団に敗れたリガ市民が1330年、騎士団の命令により建設した城。1429年までリヴォニア騎士団の長がここに住み、1558年のリヴォニア戦争以降はポーランド、スウェーデン、ロシアの支配者が次々に住居として活用。リガ城はラトビアの国と人々の運命を証言する記念建造物でもあり、現在は大統領府として使用され、3階には国立ラトビア歴史博物館もあります。



リガ大聖堂

●リガ大聖堂(ドーム大聖堂)

ラトビアにおけるカトリック教推進の中心地として、1211年から建造が始まった赤煉瓦の壮麗な大聖堂。ドイツ支配の象徴的遺産物でもあり、約5世紀に渡り幾度となく再建・増築が繰り返えされました。このためロマネスク、ゴシック、バロックといった建築様式が混在。その見事な調和は卓越した歴史建築記念物として貴重な存在となっています。リガ大聖堂を世界的に有名にしたもう一つの見どころが1884年製作のパイプオルガンとリガの歴史を刻むステンドグラス。オルガンは当時世界最大級の規模を誇り、パイプの数はなんと6718本。現在はオルガンコンサートが定期的に開催され、多くの市民や観光客に親しまれています。



リガ大聖堂と旧市街



ライトアップされたブラックヘッド会館

●ブラックヘッド会館

ブラックヘッドとは中世バルト海沿岸都市にあった未婚貿易商人の集いの会のこと。ギルドメンバーのパーティ会場として使用され、コンサートやダンスパーティが盛大に行われていました。リガ市建設800年祝賀記念事業として1999年再建。外壁にかかる時計の下には4つのハンザ都市(リガ、ハンブルグ、リューベック、ブレーメン)の紋章が浮き彫りにされ、ギリシア神話の神々の像が置かれています。

●自由記念碑



自由記念碑

ラトビアの独立を記念して、1935年に建てられたラトビア民族の祖国への愛と自由の象徴。高さ50mの塔の上部には「ミルダ」と呼ばれる女性像が立ち、3つの星を掲げています。この星は当時のラトビアの3つの地域(クルゼメ、ヴィゼメ、ラトガレ)の連合を表し、碑の基本部分には「祖国と自由に」という文字が刻まれ、ラトビアの歴史を象徴する彫刻で飾られています。



ミルダが掲げる3つの星



歴史を物語る彫刻

COLUMN

リガのアールヌーヴォー(ユージェントシュティール)様式建築群

19世紀末から20世紀初頭にかけてヨーロッパで花開いた新建築様式でユージェントシュティールとも呼ばれる。壮麗で豊かな表現力が人気となり、建築をはじめ絵画、家具、装飾など多様な芸術分野に用いられました。このアールヌーヴォー様式の独創的な建築群を見られるのがリガの新市街。ピーク時には1年に1500件も建てられ、他の都市に類を見ないほどの建築群を形成しました。アルベルタ通りやエリザベテス通り周辺は特に多く、ミハイル・エイゼンシュテイン設計の建物やライオン、スフィンクスの石の彫刻、植物、人面を描いたカラー煉瓦や陶器タイルをご覧いただけます。また、合理的な垂直様式の建物はプリブィーパス通り、マリヤス通りなどにあります。新市街では頭上にも注目!



CĒSIS

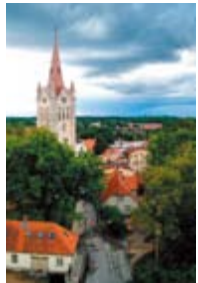
ツェーシス

ラトビア人が「もっともラトビアらしい町」と評する古都

リガの北東約75キロに位置するリガに次ぐラトビア第2の古都。紀元前に居住が始まり、9世紀にはリヴ人たちの交易の中心地として繁栄。リヴォニア騎士団による占領後、ハンザ同盟に加盟し全盛期を謳歌しました。町の西側には旧市街が広がり、多くの建造物が国の文化財に。リガからの日帰り観光も可能な距離にあり、ツェーシス城、聖ヨハネ教会、歴史芸術博物館など訪ねてみたいポイントです。



ツェーシス歴史芸術博物館



聖ヨハネ教会と街並

SIGULDA

スイグルダ

「ラトビアのスイス」と称される豊かな緑と渓谷が美しい町

リガの北東約50キロ、森と丘に囲まれたガウヤ国立公園の中にある風光明媚な町。ガウヤ川渓谷の壮大な景観はまさに絶景の一言。13世紀ドイツ十字軍に占領された後、リヴォニア騎士団が川の東側にスイグルダ城を、リガ司教が川の西側にトゥライダ城を築き、町が造られていきました。現在はリゾートとして人気があり、夏には毎年オペラ祭が開かれています。



深い森に包まれたスイグルダ城

AGLONA

アグロナ

17世紀から連続と続くラトビアの「ローマカトリックの聖地」



バジリカ教会堂

ラトビアのローマカトリックの中心地といえるのが宗教芸術が多数あるアグロナ。ローマ法王ヨハネ・パウロ2世も訪れたことがあるバジリカ教会堂は緑の丘に建ち、高さ56mの塔は青空高くそびえ威厳を誇っています。1699年木造で建造され、1768年現在の石作りの基礎が築かれました。毎年8月15日にはラトビア、リトアニア、ポーランド、フランスなどから何千という巡礼者がこの聖地を訪れます。

BAUSKA

ハウスカ

絢爛豪華な「バルトのベルサイユ宮殿」ルンダレー城は必見

リガから南へ約67km、メーメレ川とムーサ川が合流してリウルベ川となる地点にある歴史深い町。15世紀この川を見下ろす丘にリヴォニア騎士団が強大な城を建設。その後、町の中心はメーメレ川沿いにある現在の旧市街へ移り、16世紀後半に聖霊教会が建造されました。20世紀半ばまでラトビア人、ドイツ人、ユダヤ人の3つ民族が暮らしていたという歴史もあります。近郊の見どころは、ピロン公の夏の宮殿として1768年完成したルンダレー城。サンクトペテルブルクの冬の宮殿を建造した建築家ラストレリリ作で、バロック建築、ロココ調インテリアなど贅を尽くした宮殿はハウスカ観光のハイライトといえるでしょう。



緑の中に佇むルンダレー城



ルンダレー城南側のフランス庭園



ハウスカ城址